

## W&amp;G

## W&Gの事業譲渡ならびに社名変更について

インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス株式会社(W&G)は、グループの研究開発機能を強化するために、事業性の高い先端IT事業およびEXpath事業を、平成20年4月1日に株式会社インテック(インテック)へ譲渡することとなりました。また、これにあわせて、社名を「株式会社インテックシステム研究所」に変更し、バイオインフォマティクスや情報通信の研究開発に主眼を置いた企業として再スタートいたします。

W&Gは、1989年にインテックの研究開発を担う企業として設立以来、情報通信分野の最先端技術の研究・開発に携わってまいりました。また、遺伝子解析研究分野も手がけ、共同研究や遺伝子解析ソフトウェアの開発を進めてまいりました。

2000年には、グループの研究開発企業から、研究成果をグループ外に展開すべく、マザーズ上場を果たして飛躍してまいりました。

今回の事業譲渡は、グループの経営統合ならびに再編に先立ち、

W&Gで行っている先端IT事業およびEXpath事業についてはインテックで一層の営業強化・事業拡大を図る。

W&Gは情報通信分野およびバイオインフォマティクスの研究開発に注力し、経営統合後のグループ全体の研究開発を担う企業となる。

ために、より効率的な再編をし、かつ重要な任務を負ったものです。

グループ全体で、よりお客さまにご満足いただけるよう努力する所存でございますので、引き続きご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

### インテックへ譲渡する事業

IPテレフォニー事業      セキュリティ事業      PC関連事業  
EXpath事業

### 社名の変更について

平成20年4月1日より株式会社インテックシステム研究所 に変わります。

URLは平成20年3月末まで <http://www.webgen.co.jp>

平成20年4月1日より <http://www.intec-si.co.jp> に変わります。

問い合わせ先：W&G総務部 TEL：03-5665-5011

e-mail：info@webgen.co.jp

## インテック

## 日本経団連の御手洗富士夫会長らがインテックキッズホームを視察

昨年11月21日、日本経団連の御手洗会長、副会長の古川一夫日立製作所社長、佃和夫三菱重工業社長ら、一行約30名が、富山市にあるインテックの事業所内託児所「インテックキッズホーム」の視察のため来社した。これは北陸経済連合会との「北陸地方経済懇談会」の一環として行われたもの。



粘土遊びをする子どもたちを視察する一行(御手洗会長は右から二人目)

インテックホールディングスの中尾哲雄会長兼社長が歓迎の挨拶を兼ねてインテックグループを紹介し、続いて上野唯泰人事部長がインテックの子育て支援の取り組みについて説明した。その後、小グループに分かれて、粘土や人形で遊ぶ子どもたちの様子や各種施設を視察した。細かい点まで配慮が行き届いた施設であること、またインテックの子育て支援の取り組みについて高く評価された。

インテックキッズホームは2007年3月、インテックグループ社員が子育てをしながら安心して就業できる環境をさらに整備するため設置した事業所内託児所である。また、グループ社員だけでなく、近隣の富山駅北地区の企業で働く子育て中の就業者にも利用していただいている。

## インテックホールディングス

## インテックHDの中尾会長 総合ビジネス誌「財界」の「経営者賞」を受賞

インテックホールディングスの中尾哲雄会長兼社長が、総合ビジネス誌「財界」の平成19年度「経営者賞」に選ばれ、贈呈式が1月10日に東京で行われた。

「財界」(財界研究所発行)は、1953年に三鬼陽之助氏(経済評論家)が創刊した総合ビジネス誌で、「経営者賞」は今年で50回目。毎年、活動が目立った経営者を選ぶもので、堺屋太一氏、伊藤邦雄氏、鳶信彦氏ら9名からなる選考委員会によって、中尾会長をはじめ、西田厚聰東芝社長、米倉弘昌住友化学社長など5名の受賞者が決まった。なお、財界賞特別賞には作家の倉本聰氏が選ばれた。中尾会長は「サービスが先、利益は後」という先利後利の精神で事業に尽力していること、また、積極的な地域貢献や地方から世界に向けて情報発信している姿勢が評価された。

経済界を中心に約1400名が参加した贈呈式では、選考委員を代表して堺屋太一氏が受賞者一人ひとりに賞状と記念のレリーフを手渡し、女優の竹下景子さんが花束を贈った。中尾会長は「日本、そして世界に情報通信サービスを提供させていただけることを大変幸せに思う。『通信は信を通わせること』を信条として、これからも経営にあたってきたい」とお礼を述べた。



中尾哲雄会長(左から二人目)

## IUK

## グリーン電力で環境対策、4月からスタート

アイ・ユー・ケイ(以下、IUK)は4月より、日本自然エネルギー株式会社が発行する「グリーン電力証書システム」を利用してグリーン電力を活用することを決めた。

グリーン電力とは、風力や水力、バイオマス(生物資源)などの自然エネルギーで発電された電力のこと。このようなグリーン電力はCO<sub>2</sub>を排出しないため、省エネルギーやCO<sub>2</sub>排出削減などの価値をもつ。この環境付加価値を「証書」という形で取引することを可能にしたのが「グリーン電力証書システム」で、証書を持つ企業や団体は、記載された発電電力分のCO<sub>2</sub>を削減したとみなすことができる。

IUKでは年間約30万キロワットの電力を消費しているが、環境対策の一環として、まずその3分の1をグリーン電力でまかなうことにする。今後、グループ全体での取り組みを検討していく。

## インテック

## マクロミルとビジネスパートナー関係強化

インテックは昨年11月20日、マクロミルの普通株式の一部を取得し、ビジネスパートナー関係を強化した。マクロミルのコア事業であるインターネットリサーチ事業をIT面から全面的にサポートし、新サービスや新事業の共同開発を行っていく。

マクロミルのネットリサーチ事業は、独自開発のインターネットリサーチシステム「AIRs」を基軸とし、リサーチ作業工程を最大限にシステム化することで収益力の高いビジネスモデルを構築している。

インテックは「AIRs3」の稼働以来、システムおよび周辺ネットワークの保守を担い、マクロミル調査サービスの安定処理を支えている。

## インテック

## 日本IBMから、トップインテグレート賞を受賞

インテックは2月19日、日本IBMのパートナー・エグゼクティブ・フォーラムにて「トップインテグレート賞」を受賞した。豊富なプロジェクト経験を基盤に、とくにサ・パー&ソフトウェア部門で前年の2倍以上にビジネスが拡大し、2007年の合計取引額がシステムインテグレートのパートナー中トップであったことが評価された。



日本IBMの高橋慎介執行役員から盾を受ける金岡克己社長

